

令和4年度（令和4年11月実施）

「読書に関する調査」のまとめ

～読書指導の改善・充実に向けて～

学校教育課通信

令和5年3月8日 第184号

編集・発行：県南教育事務所 鈴木正和

令和4年11月に実施した「読書に関する調査」の県南域内の調査結果です。今回の結果を各学校での読書活動の推進、充実に役立てていただければ幸いです。各市町村教育委員会及び各小中学校におかれましては、調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

令和2年2月「第四次福島県子ども読書活動推進計画」が策定されました。その中に次のような数値目標が掲げられています。今回の調査結果と照らし合わせてご覧ください。

〈基本方針1 子どもが読書に親しむ機会の充実に〉

多様な読書活動推進に取り組んでいる学校の割合	100%
本を1か月に1冊以上読んだ児童生徒の割合	100%



<令和4年度の調査結果及び過去2年間との比較と考察>

○ 対象人数 域内全小・中学校全学年（1学級抽出又は全学級）

計6874人（域内全小・中学校在籍者の64.2%）

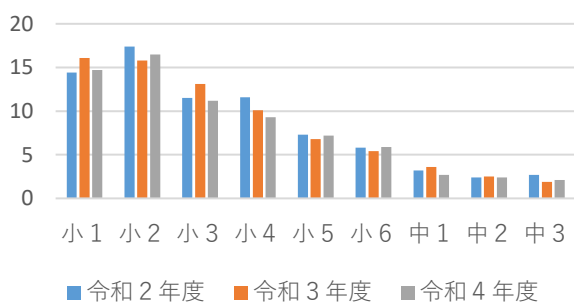
1 平均読書冊数について

（単位：冊）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
令和2年度	14.4	17.4	11.5	11.6	7.3	5.8	3.2	2.4	2.7
令和3年度	16.1	15.8	13.1	10.1	6.8	5.4	3.6	2.5	1.9
令和4年度	14.7	16.5	11.2	9.3	7.2	5.9	2.7	2.4	2.1



読書冊数（平均冊数）



○ 小学1～3年生の読書冊数は10冊以上であり、特に2年生は最多数となっています。1人で本を読めるようになり、教科学習との関連からも読書の幅が広がっていると考えられます。

○ 中学生になると選ぶ本に変化が見られますが、読書冊数は、減少傾向にあり、読書に親しむ機会が減っていることが考えられます。学年ごとに目標冊数を設定したり各教科の学習内容と関連する読書を励行したりと、学校での読書活動の工夫が必要と言えます。

2 【不読者（1か月に1冊も読まなかった児童生徒）の割合】

（単位：%）

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
令和2年度	0.5	0.2	2.5	2.7	5.5	3.7	9.5	11.7	16.5
令和3年度	1.1	0.1	0.2	2	2.9	4.5	9.1	16.1	23.6
令和4年度	0.3	0.6	0.9	1.1	3.8	6.3	12.4	16.7	22.2



○ 小学校は、1・2学年においては昨年に引き続き不読者の割合が大変少ない状況にあります。一方、6学年は読書冊数に大きな変動はありませんが、不読者の割合が増加傾向にあります。

○ 中学校は、不読者の割合が増加傾向にあります。次に示す「読まなかった理由」からも分かるように、生徒の身近にあるメディアが影響していると考えられます。

3 【読まなかった理由について】 ※最も当てはまる項目一つを回答 最多数の項目…■ (単位：人)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
勉強・塾・宿題などで忙しい	0	0	1	0	3	7	7	6	25
部活動等で時間がない	0	0	0	0	0	7	7	6	4
テレビ・ゲームなどのほうが楽しい	0	0	1	1	9	5	17	19	19
スマートフォン・携帯などのほうが楽しい	0	0	0	1	3	6	8	25	29
雑誌やマンガのほうが好き	0	1	0	1	7	10	16	27	29
遊ぶほうが楽しい	1	0	1	0	2	2	5	9	6
どんな本を読んでいいかわからない	2	3	0	1	0	6	6	4	7
読まなくても困らない	0	1	1	1	2	1	7	10	18
本が嫌い	0	0	3	1	4	3	7	9	18
その他	0	0	1	3	2	6	4	4	3


○ 小学校5・6年から中学生にかけて、「テレビ・ゲームなどのほうが楽しい」「雑誌やマンガのほうが好き」「スマートフォン・携帯などのほうが楽しい」などの理由が多く挙げられ、発達段階によって、本を読まない人数と理由が変化していることが分かります。インターネットの普及、メディアの多様化に伴い、本以外への関心が高まっていることがうかがえます。学校生活の中でこそ、読書の楽しさや本を活用することの有用性を実感する機会を設けることが重要であると言えます。また、各家庭でのノーメディアの推進にも継続的に取り組み、家庭での読書生活の充実を図っていきましょう。

4 【多様な読書活動について】

○ 校内で読書活動推進の取組を行っている学校（小学校34校、中学校18校）※取組の内容（複数回答可）

項目	小学校	中学校
図書の読み聞かせ・ブックトーク等	32校	9校
読書感想文コンクールの実施	29校	14校
必読書・推薦図書コーナーの設定	30校	11校
目標とする読書量の設定	18校	4校

県南域内の全小・中学校で、左のいずれかの読書活動推進の取組を行っています。読書意欲の向上に欠かせないこれらの取組を継続していきましょう。



○ 学校図書館には次の3つの役割があります。

- ①読書センター…自由な読書活動や読書指導の場
- ②学習センター…児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりすること
- ③情報センター…児童生徒・教職員の情報ニーズへの対応や、児童生徒の情報収集・選択・活用能力を育むこと



これらの役割を果たすために、授業や校内の読書活動において、学校司書と連携したり、外部機関と連携を図ったりするなどして、読書好きの子どもを増やすとともに、思考力・判断力・表現力等や情報活用能力を育てていきましょう。また、校内での読書活動推進の取組をさらに充実させ、子どもの読書への関心を高めることにつながるように、多様な読書活動を取り入れていきましょう。

- 読書会 ペア読書 お話（ストーリーテリング） ブックトーク アニメーション
- 書評合戦（ビブリオバトル） 図書委員等の活動 図書館見学
- 子ども同士の意見交換を通じて一冊の本を「〇〇賞」として選ぶ取組

参考：「第四次福島県子ども読書活動推進計画」より